

まずロータリーの平等について考えて見ましょう。

RIは決してClubの上部団体ではありません、Clubで構成されている連合体として表示されているに過ぎないので「Clubこそ独立した責任単位である」のです。RIの定款細則を守ることによって、共通のルールを守り互いに横に堅く結ばれているのです。

そして活動の主体は個々のロータリークラブにあります。全てのクラブは新旧、大小の別なく、皆同格、同等、同列で何の各付けも勿論ありません。親クラブ、子クラブといった格付けは日本にだけ存在する習慣だとも言われています。言い換えるとClubの上にClubはなく、またClubの下にもClubはないと言えるのです。E-Clubは同格の責任を負っています。

また地区はClubの強化を援助するものですが統制するものでもありません。

偉いと思われがちながバナーは唯一RIの役員として一年間だけ地区内のClubの世話人となるのです。手を抜くことも気を抜くことも出来ませんから、体力的にはエライシンドイことではありますが、決してClubを直接指導したり、命令したりする何の権限も持っていません。Rotaryは決して権威主義、事大主義に汚染されてはなりませんから注視していきましょう。

世界中のRC、Rotarianが手に手をつないで奉仕の大道を歩き共同の目的を達するために努力することこそ、それがRotaryなのです。

その最たるものに、ポリオ撲滅運動があります。

私たちのE-Clubでは献血運動で既に実績を積んでいますが、11月9日は鹿児島山形屋前で、ポリオ撲滅キャンペーン活動に汗を流し、見事な奉仕活動の実を挙げられました。参加者は「これこそロータリー」と実感されたに違いありません。

Rotarianはすべてに平等であるのが原則です。大会社の社長も、大銀行の頭取も小商店の店主もみな1人のRotarianであり、同じ資格、同列なのです。同じように、RI会長もGovernorもパストガバナーも1人のRotarianですし、それがRotaryなのです。創始者ポール・ハリスが初めに定めた一業種一名という原則はすべて平等的立場に立ちやすいために考案したものと言ってよいと思います。

日本のロータリーはその発足当時、一業種一名の原則をエリートの原則と「はきちがえ」それが今もって災いして、Rotarianの頭の中にエリート意識が残っていて、更に悪いことにはクラブでも物事を上下の関係にとらえたり、習慣がクラブによっては存在しています。ただ、扱われし者としての矜持は持ちたいものです。

こうした習慣がパストガバナーを特別な人であると考えたり、取り扱ったり、また自分自身もそう思うことが当たり前になっていたりします。甚だしい場合は、パストガバ

ナーの中には特別な扱いをされないと御機嫌を悪くする人さえおられます。ガバナーが終わるとパストガバナーになりますが、翌年クラブ会員として、クラブの SAA をしたって何ら不思議ではないのです。

さて、公平ということでは、私が 2007 年地区米山奨学委員会委員長時代のことです。毎年地区内留学生を 10 名から 12 名選抜して、米山奨学生としていますが、その配分を考えてみましょう。

- 1 鹿児島県と宮崎県とに等分して 5 名～6 名ずつがいいでしょうか？
- 2 奨学金の県別合計寄付額に応じて案分がよいでしょうか？
- 3 大学の数に開きがあるから大学数によって配分が良いでしょうか？

先にロータリーの平等性について書きましたが、四つのテストにある＝「みんなに公平かどうか」に行き当たります。

15歳と35歳と65歳の男3人がいます。6個のパンを配分するに平等なのは、一人2個ずつとなります。しかし、育ち盛りの15歳と成人65歳では分配数が違って当たり前なのが「公平」なのだと、私は思います。ロータリー米山記念奨学会の理事長を長くされた故島津 PG の影響もあったのでしょうか Rotarian の人数は宮崎県が少ないのですが米山の寄付額は鹿児島県より若干多かったです。

留学生の数は鹿児島県が遥かに多かったものですから、結論は、鹿児島県：宮崎県＝6：4の配分としたものでした。

その後の運用は承知していませんが、公平か？と言うとき、決まって思い出すことなのです。

平等 (Equality) と公平 (Justice) を一緒に考えましょう。

ご意見を待っています。